

サンゴ育む新兵器



コーラルペグ上で育った稚サンゴ＝阿嘉島臨海研究所提供

コストと作業「くい」で軽減

サンゴを育てるのに有効な「くい」を、沖縄県の阿嘉島臨海研究所が開発した。テントを張るとき地面の固定に使うペグに似た形で、「コーラルペグ」と名付けた。海底に

差し込んで移植できるため、ダイバーによる作業時間が従来の半分ですむという。

同研究所は、卵からサンゴを育てる技術開発を進めている。これまでは10センチ四方の陶製の板にサンゴの幼生を付着させ板ごと海底に植えていた。海底に固定する際に金属製のクギで打ち付けたり、接

着剤を多く使ったりして作業に手間がかかっていた。

コーラルペグは長さ6センチ。

先端部はコンクリートに石英を混ぜた素材。サンゴの卵を入れた水槽に2日間浸すと、この先端部に幼生が付着して成長を始める。1年半ほどで高さ約3センチに育った稚サンゴを、あらかじめドリルで穴を開けた海底に植えるため移植作業が簡単で、接着剤の使用も少量ですむ。

東京水産大（現東京海洋大）名誉教授の大森信所長は「輸送コストを5分の1程度に抑えられる。沖ノ鳥島で進められている稚サンゴの移植事業などに活用できそうだ」と話している。（山本智之）